

というようなことの発想を聞いておりました。まさに、イトヨプランという、ここで生まれて育った人間が、どうやって糸魚川で再び暮らしていく、また持続して暮らしていくのかという部分を我々がやっぱり身をもって、これから考えていく時期に差しかかってくるのではないかと思っております。ぜひこれからの糸魚川づくりは、皆さんと共に行っていければと思っておりますので、ご理解をしていただければと思います。よろしくお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原 実議員。

○15番（田原 実君）

全く同意見でありますし、それを今後どう進めていくかということではありますが、今回の一般質問でも、池田議員、東野議員、加藤議員ほか、若い議員の皆さんの発想に学び、市民の声でまちづくりの現場にいることを私は実感しています。いただいたまちづくりの提言を、市長行政と議会で一体で進められたら、糸魚川の未来は明るいと思えます。共に頑張りましょう。

終わります。

○議長（古畑浩一君）

以上で、田原 実議員の質問が終わりました。

関連質問する時間なしと認めます。

関連質問なし。

以上で、田原 実議員の一般質問を終了いたします。

それでは、11時15分まで暫時休憩いたします。

〈午前11時06分 休憩〉

〈午前11時15分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、田原洋子議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。〔10番 田原洋子君登壇〕

○10番（田原洋子君）

おはようございます。田原洋子です。

冒頭、このたび大分市佐賀関、また中学校の相互交流がある姉妹ジオパークの香港で発生した火災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、お亡くなりになられた方のご冥福と、一日も早い復旧・復興をお祈りいたします。

それでは、通告書に基づき、1回目の質問をいたします。

1、ジェンダー・ギャップとアンコンシャス・バイアスの意識改革による働きやすい職場づくり

について。

総務省「社会生活基本調査」（2021年）の家事関連時間（家事、介護・看護、育児及び買物）は、6歳未満の子供がいる世帯の場合、共働きでも女性は1日平均6時間33分に対し、男性は1時間55分と、3.4倍の開きがあります。先進国では、ジェンダー・ギャップ（性別の違いによって生じる格差）が小さいほど出生数が高い傾向があり、北欧諸国では、男女とも仕事と家庭を両立できる環境づくりを徹底し、出生数を高めました。

しかし、日本では、女性のみならず仕事と家庭の両立を求めている傾向があるのではないのでしょうか。仕事と家庭の両立には、長時間労働の是正、男性の育児参加を促すことが求められます。

そのためには、無意識の思い込み、アンコンシャス・バイアスを払拭して、誰もが働きやすい職場環境を整える必要があります。

また、女性が産休、育休から復帰したときに、本人の意思に反して業務内容の変更や短時間勤務になるなどが原因で、キャリアアップを妨げられ、昇給・昇進の機会を失うマミートラックは、人手不足を補う面でも企業が取り組むべき課題となっています。

糸魚川市の2023年男女別・年齢階級別の人口移動では、男女とも15から24歳が進学・就職などに伴う転出が最も多く、Uターン就職などに伴う転入は、男女とも20から29歳が最も多い傾向ですが、転出数まで達していない状況です。

国土政策局「企業等の東京一極集中に係る基本調査（市民向け国際アンケート）」（2020年）では、出身地域を離れた理由として、若い女性の25%が「家事・育児・介護は女性の仕事」などの固定的な性別役割分担意識などが、都市より地方のほうがあると感じていて、男女の意識差も大きいことが地方から都市への転出につながり、地元に戻ることに心理的障壁となっている可能性があるとして指摘しています。

「若者や女性にも選ばれる地方」に向け、自治体が地元企業などに呼びかけて、地域社会のアンコンシャス・バイアスや働き方の課題を解決していく取組は、68自治体が参加し「地域働き方・職場改革ネットワーク」を形成しており、新潟県では、新潟市、見附市、佐渡市、妙高市が参加しています。

先行自治体の兵庫県豊岡市では、転出女性等へのヒアリング等を行った結果、女性が県外に流出する背景には、職場や地域、家庭において「男女格差」（ジェンダー・ギャップ）があるという課題を抽出。2018年に女性が働きたい仕事・職場への変革に積極的に取り組む事業所を募り、「豊岡市ワークイノベーション推進会議」を設立。勉強会やセミナーを通して、事業所内の情報共有を実施、キャリアデザインアクションプランを策定し、働きやすく、働きがいのある職場を目指し、取り組んでいます。

取組の一つでもある男性の育児休業取得については、2024年2月に市役所職員の男性育児休業取得率が目標の100%を達成しています。また、市内事業所でも、女性の管理職登用が増加するなど職場改革が進んでいます。

また、2025年4月1日から段階的に施行されている育児・介護休業法の改正で、従業員数300人超の企業は、育児休業取得状況の公表が義務化され、テレワークなど柔軟な働き方を実現するための措置などは、2025年10月1日から義務化されています。

一方、糸魚川市のホームページでは「子育て」のページにも、「雇用」のページにも「育休制度」

についての紹介がなく「育休制度」でキーワード検索しても、男女共同参画の議事録しか見つかることができません。

転出超過を食い止めるためにも、若者や女性が糸魚川市に住み続けるためにも、仕事と家庭の両立、子育てしやすい環境づくりに取り組むことが必要ではないでしょうか。

これらを踏まえ、以下の項目について伺います。

- (1) 糸魚川市役所の男性職員の育児休業取得率100%を目標に掲げられませんか。
- (2) 糸魚川市でのジェンダー・ギャップの実態調査をする考えはありませんか。
- (3) 学校でアンコンシャス・バイアスについて学ぶ機会がありますか。
- (4) 新潟県の制度に男性の育児休業取得促進助成金があることを企業に働きかけていますか。
- (5) 育児・介護休業法の改正の周知は、どのように行っていますか。
- (6) テレワーク導入など、柔軟な働き方を取り入れるために必要な経費を助成する考えはありませんか。
- (7) 職場の意識改革のための研修などに対して助成する考えはありませんか。

2、(仮称) 駅北子育て支援複合施設について。

(仮称) 駅北子育て支援複合施設は、2015年3月に「第1期糸魚川市子ども・子育て支援事業計画」で屋内遊戯施設整備を計画したことに始まり、2016年12月に発生した糸魚川駅北大火の復興まちづくり計画で「にぎわいの拠点施設」、2020年10月に「にぎわいの拠点施設」の方向性を「複数分散型まちづくり」、「子育て支援を中心とした機能」としました。

2021年4月の「第2期糸魚川市子ども・子育て支援事業計画」では、屋内遊戯施設は継続されており、市内の子育て世代、自治会、経済団体、まちづくり団体などと2年かけて、3回懇談会を重ね、2022年8月に「子育て支援施設に図書スペース等を追加し、複合施設化」としました。

2023年1月にパブリックコメント実施、2024年の3月定例会で、施設整備を進めるための債務負担行為の議案が賛成多数で可決され、市民公開でプロポーザルがあり、DBO方式で建設や運営を担う民間事業者と基本協定が締結されました。

しかし、旧東北電力ビルの解体工事は、入札の不調が続き、2025年6月定例会の初日に久保田市長が「現計画による施設建設は中止」と表明し、その後「汎用性のある広場を整備、屋内遊戯施設は民間も含めて既存施設を活用し、別の場所に早期に実現する」との方針を示しました。

中止に伴い、2025年10月20日の総務文教常任委員会では、(仮称) 駅北子育て支援複合施設整備事業基本協定の解約金は539万円、新築工事設計業務委託の出来高払いとして、令和7年度分は3,106万4,000円、既に支払い済の令和6年度分の294万300円と合わせて約3,940万円が支出されます。

これらを踏まえ、以下の項目について伺います。

- (1) 解約金、設計業務の出来高払い分の財源は何ですか。
- (2) 「見直し」と訴えていたときから、この約3,940万円という金額は想定していましたか。また、この金額についてどのようにお考えですか。
- (3) 9月22日の(仮称) 駅北子育て支援複合施設整備計画調査特別委員会では「子育て世代への聞き取り、市内子育て支援センター利用者のアンケートを予定している」と説明がありましたが、いつ、何を目的として、どのように計画に取り入れていくのですか。

- (4) 「中止」に対してどのような意見が寄せられていますか。
- (5) 駅北の計画地に汎用性のある広場整備は、誰が、いつ、どのように求めていたのですか。
- (6) 汎用性のある広場が、屋内遊戯施設を含めた複合施設以上に、にぎわいを創出する根拠はどこにあるのですか。
- (7) 複合施設であれば、津波避難の際に使えるという安心感、図書コーナーをバスや電車待ちで利用したかったという意見についてどう対応しますか。
- (8) 汎用性のある広場の設計費、整備費、運営費、対象者、利用者数はどのように計画していますか。
- (9) 既存施設を含めて検討している屋内遊戯施設は、広さ、対象年齢、機能はどのようなものになりますか。
- (10) 屋内遊戯施設の役割は、ただ単に遊ぶ場所以外に、どのような役割があると考えていますか。

以上で1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

田原洋子議員に負けないように、元気よくご質問にお答えさせていただきたいと思えます。

1番目の1点目につきましては、今年度、子供が生まれた男性職員全員が育児休業を取得しており、引き続き、取得しやすい環境づくりに努めてまいります。

2点目につきましては、第4次いといがわ男女共同参画プラン策定に当たり、ジェンダー・ギャップを含む33の項目について、市民意識調査を実施しております。今後、データの集計や分析を行い、計画及び施策に反映してまいります。

3点目につきましては、道徳、生活科、家庭科等の授業で学ぶ機会があります。また、児童生徒の人権意識を育む上で、教職員が「決めつけはよくない」というバイアスフリーの視点を持って教育活動を行っております。

4点目と、5点目につきましては、県及び新潟労働局がそれぞれホームページ等で周知しており、市もリーフレット配布や電子メールなどで周知を行っております。

6点目と、7点目につきましては、市として助成する考えはありませんが、雇用環境整備に関する国や県の支援制度の周知啓発に努めてまいります。

2番目の1点目につきましては、一般財源であります。

2点目につきましては、解約金と出来形に伴う設計委託料の支払金額は、実施した業務の対価として妥当であると認識しております。

3点目につきましては、10月に市内子育て支援センターで実施したアンケートの結果やご意見などを見直し、内容に反映してまいります。

4点目につきましては、地区懇談会や子育て世代へのアンケートでは、見直しに対する賛否の両意見が寄せられております。今後も市民の声を丁寧に聴いてまいります。

5点目につきましては、建物建設中止の判断に際しては、整備費や運営費の大きさへの懸念が多

かったことを踏まえ、既存ビル解体を前提に、計画の目的と立地は維持しつつ、民間活力と親和性の高い「汎用的な広場」として再提案しているものであります。

6点目と7点目につきましては、見直しにより当初計画で想定した一部機能は、他の施設に代替するなどし、広場でも多様な活動を可能とすることで、多くの方にご利用いただけるよう努めてまいります。

8点目と9点目につきましては、本定例会中に議会へ説明しながら整備を進めてまいります。

10点目につきましては、屋内遊戯場は単なる遊び場ではなく、子供の成長や社会性を育み、親同士の交流や子育て情報の発信など、拠点となる重要な施設と考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

ではまず、今回も市民の方から頂いたご意見や疑問、提案を基に再質問させていただきます。

1、ジェンダー・ギャップ指数とアンコンシャス・バイアスの意識改革における働きやすい環境づくりについてです。

このジェンダーという言葉は、SDGs持続可能な開発目標の目標5に掲げられているジェンダー平等を実現しよう。一人一人が性別にかかわらず平等に責任や権利、機会を分かち合い、それぞれの個性と能力を発揮できる社会を目指すということで耳にしたことがあると思います。

久保田市長にお聞きします。

糸魚川市、もしくは糸魚川市役所内では、どのようなところにジェンダー・ギャップがあるとお考えですか。

また、ジェンダー平等実現のためにどのような取組をしていく方針でしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

ジェンダー・ギャップというふうなこともありますけども、私が4月24日からの登庁の際に、庁内の職員に訓示をした中においては、アンコンシャス・バイアス、非常に思い込みがあるような対応は避ける。またそういう考え方は、ぜひなくしてほしいということで、アンコンシャス・バイ

アスについては、日々、職員の皆さんにはそういうようなことを心がけるようにと、気をつけるようにということで対応させていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

このアンコンシャス・バイアスという言葉、私が初めて聞いたのは、2021年、にいがた女（ひと）と男（ひと）フェスティバル、男女共同参画の一環で、糸魚川市初めてオンライン会場を設置した講演会です。この2023年の同じような講演会でも無意識の先入観として出て聞いた言葉です。

ただ、この残念なのが、男女共同参画の講座に来られる方、非常に少なく、しかもほぼ女性です。たまに男性が来るか来ないかぐらいで、男性の意識も変えないと、このアンコンシャス・バイアスという考えの是正にはつながらないと思うんですが、どのように、男性も女性もアンコンシャス・バイアスについて学ぶ機会を増やしていくと思っ、考えておられますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

木島環境生活課長。〔環境生活課長 木島美和子君登壇〕

○環境生活課長（木島美和子君）

おはようございます。

アンコンシャス・バイアスをどのように理解を、特に男性に進めていくかというようなご質問かと思います。

議員さんおっしゃるように、確かに男女共同参画の講演会等をして参加者はほとんど女性というような内容でございます。まず、参加人数自体も少ないということで、いろいろ子育て世帯、それから商工会議所等を通じて、企業の皆さんにもお声がけというのをさせていただいているところなんです、なかなか広がっていかないというのは担当課としての悩みでもあります。どれという、これというようところはなかなか見つけにくいところではあるんですが、様々な機会をツールを使いながら、また、そういった周知を市民の皆様にも広めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

このジェンダー・ギャップとアンコンシャス・バイアスについては、男女共同参画になるので環境生活課かなと思うんですが、企業の働きやすさという商工観光課の分野になると思うんですよ。まず、商工観光課として、例えば企業に働きかけ、例えば先ほど職場の意識改革のための研修に対して、特に市は助成金等というのをやるつもりはないという答弁があったんですが、もっと積極的に働くべき案件だと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

職場の中に、実際にそういったアンコンシャス・バイアス、またはジェンダー・ギャップがあるかという部分については、議員ご指摘のように、あるのではないのでしょうかということが、まず正直なところです。詳細のデータとしては、今、私はエビデンスを持ち合わせておりませんが、ご指摘のような意識を改革させるような研修制度については、労働関係の制度については、厚生労働省がかなり手厚く制度化をしております。ですので、既存の制度がございますので、それを活用していただけるように、企業のほうには促してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

では、この300人以上の企業、育児休業取得状況の公表が義務化されているんですが、まず、この糸魚川市役所は公表する対象なんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

糸魚川市のほうでは、年1回広報いといがわのほうで職員の状況のほうを報告しております。その中に、育児休業の取得についても報告させていただいております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

糸魚川市のホームページ検索しますと、糸魚川市における女性職員の活躍の推進に関する特定事業主行動計画（後期分）というのがございまして、ここの目標値、育児休業、女性については100%、ただし男性は、各年度1人以上なんですよ。

今回、今、先ほど市長答弁で、令和7年度、全員男性は育児休業を取ります。つまり100%取得してるんですよ。これは、糸魚川市がすごく前進しているという、糸魚川市の強みだと思うんですが、これは大々的にホームページなり、糸魚川市が男性育児休業に力を入れてますというPRポイントだと思うんですが、もっとPRするべきではございませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

議員言われているように、恐らく当時は、男性の取得が少なかったのが女性とは違う書きぶり、人数になっておるかと思えますけれども、今変わってきて、先ほど申し上げたとおり、今年度については100%取っておりますので、その辺を周知、大いに啓発してまいりたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

これ、私、令和5年6月の定例会の一般質問で、出会いから結婚、子育てまでの切れ目のない支援について、糸魚川市役所の男性育児休暇の取得者について質問しています。

令和5年6月の段階で、昨年度で1名、おととして1名、期間は1か月から3か月と聞いています。そのときの課長答弁は、取りますよと言われるのを待ってるのではなくて、出産とか育休というのは、もう計画が立てれるから、どのような状態だったら取れるか、取りやすくなるかというのを話し合っ、まず職場の理解、職員の理解を進めていきたいという答弁がありました。

この、男性育児休業100%達成したのは、そのような取組が2年間で進んだからですか。それともたまたま今回、取る男性の職員の意識なんでしょうか、どちらでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

恐らく意識が変わってきて、当然、職員にはいろんな、子供ができましたというときには、制度の説明をする資料がございますので、それで説明をするので、全体的にもうそれが取るのが当然だなというふうにして、意識が変わってきたことによるものかと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

そうですね、意識が変わらないと、なかなか取りにくい状況だと思ってるんですよ。

それで、この300人以上の企業、公表の義務化がされてますが、糸魚川市役所以外に糸魚川市内の企業では、どれだけの企業が対象で既に公表はされているか把握されてますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

詳細の300人超えの企業という部分について、数は正確には把握してございませんし、公表に

ついても把握しておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

糸魚川市が先陣を切って100%達成したのであれば、やはりこの糸魚川市全体が働きやすい企業があるよ。若い人たちに対して手厚い企業があるよってPRしないと、まず、Uターンとか、糸魚川市の企業、選ばれないと思うんですよ。まずですね、この300人以上が義務化されてるってことは、企業に徹底されてるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

法律でございますので、企業にはその義務がございます。

議員ご質問の徹底されているかということは、糸魚川市からという部分になるかと思いますが、市には、その法律を遵守していただきたいという願いはできますが、それを課すことはできないというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

では、糸魚川市からのお願いという形で、ぜひですね、300人以上の企業に限らずですよ、糸魚川市300人以上ではない企業もたくさんございますので、この育児休業の取得状況を公表することによって、人手不足解消の一つになるんじゃないかというふうに提案をしていただきたいんですね。

同じく令和5年6月の定例会一般質問で、当時の商工観光課長はこのように答弁しています。

男性の育児休業につきましては、様々なメリットがあるというふうに思っている。男性自身は、子供の成長が見れる。パートナーのサポートもできる。社会保険料の免除だとか、給付金の受給等もできる。企業においては、社員の満足度も上がりし、会社のイメージアップになり、男性に育児休業を推進している企業だということをPRすることによって、企業の人材も確保できるといった趣旨の回答をされています。

このようなメリットを再度、また糸魚川の企業に向けて発信していただいて、糸魚川市全体で機運を高めていただきたいんですけど、市長、どのようにお考えでしょうか。糸魚川市全体で、男性の育児休業に優しい糸魚川市だというふうにPRする必要があると思いませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

私の今現時点で知る限りにおいては、えるぼし登録という企業が、女性の雇用だとか仕事の内容について、非常に手厚くしてるという部分の企業も数社あります。また、そういう中において、ある事業所においては、会社の中での結婚だとか、そういうものを非常に応援しているという企業も見受けられておりますので、そういうふうな情報を何らかの形で発信しながら、こういうふうな取組をしている企業があるという部分を周知するという事は一つの手だと思いますし、また、今でいう今後の企業の在り方について、こちらのほうからお願いなり依頼なりするという事も一つの手であるというふうに考えております。情報発信については努めてまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

では、この地域働き方職場改革ネットワーク、これについて、どのように調査とか研究とか取組とかされる方針であるかをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

議員の一般質問の文面を拝見しまして、調査をさせていただき段階ぐらいのレベル感でございます。大変申し訳ございませんが、詳しくは認識はしておりませんでした。

ご提言の部分について、ジェンダー・ギャップがあるということが、ある意味、解消が転出超過を食い止めるという、今回そういう趣旨かとございます。我々糸魚川市においてもそういった状態かということは、まだ正確な数字はつかめておりませんが、こちらのネットワークについては調査研究をさせていただきたいと考えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

男女共同参画の33間の項目で、まず実態調査をして、どこに糸魚川市が、そのような実情があって、課題解決のために何が必要なのかというのは、これからになると思います。これをぜひ取り組んでいただくことで、糸魚川にUターンしてこない理由が、仕事がないからという漠然とした理由ではなくて、今の若者は、有給休暇が取りやすいのか、女性にとっては、男女の賃金格差がないのかとか、ホームページや求人票では分からないことが多々あると思うんですよ。やはりそれは、今、若者がネットで情報を集めているように、糸魚川市役所、市内の企業、いろんなところが協力して、こういう取組をしています。実は働きやすい職場がいっぱいありますというふうにぜひPRしていただければと思います。

では、続いて、蘆本教育長にお聞きします。

アンコンシャス・バイアス、無意識の思い込み、こちらは学校の道徳とか、いろんなところで取

り入れているということなのですが、まず、学校において、例えば子供たちにおいて、これが実際は無意識の思い込みなんだよという実例があったら教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

鶴本教育長。〔教育長 鶴本修一君登壇〕

○教育長（鶴本修一君）

お答えいたします。

子供たちは、園や学校生活で様々な友達関係、それから教員の働き、言葉の働きかけ等の環境があるわけですが、私も学校現場にいた経験の中から、やっぱりとにかく無意識のうちに男の子だからとか女の子だからというふうな部分で声かけをして、要するに、しつけ的な部分のところ、規律的な部分のところを押しつけるというような部分のところは結構現場でもあるわけなんですよね。そういったときに気づきというか、そういったことについては大変大きな間違いなんだということについて、職場の仲間関係がちょっとあれは違うよとか、あの言い方については押しつけというようなこともあるので、そこら辺りもっと慎重にしたほうがいいよというふうな部分のところ、お互いの意識の気づきの共有みたいなものの中でちょっとずつ変わってくる。物の見方が変わってきて、そして子供への接し方も変わってくるというような経験を、私は何回かさせていただきました。やっぱり教員自身も、やっぱり若手、中堅、年配の方がいるんですけども、自分が育ってきた過程の中で、ついつい自分自身の物の見方、考え方が固定してしまったがゆえに、それをすぐぱつと出してしまうというふうな部分のところ、子供たちへの影響が本当に深い部分のところに着くんだなということを反省しながら勤務していたことを経験的に思い出しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

鶴本教育長おっしゃったとおり、育った環境とか、生まれた年代によって、例えば私も昭和生まれなので、男の子のランドセルは黒、女の子だったら赤という、これはもう無意識の思い込み。今はランドセルのカラーはいろいろで、男の子がピンクが好きでも全然おかしくないということが、当たり前の中の中になってます。

テレビCMでもあります。皆さん想像してみてください。パイロットになりたい。子供たちがです、将来の夢を語ってくださいと言ったときに、パイロットになりたい。それからケーキ屋さんになりたいと聞いたときに、皆さんの頭の中で、パイロットというと男の子を思い出して、ケーキ屋さんを女の子というのが、これ、無意識の思い込みです。例えばです、乳がんになるのは女性だということも無意識の思い込み、親が単身赴任してますと言うと、お父さんだと思うのも思い込みというふうになっています。

私はですね、糸魚川の子供たちが、女の子がパイロットになりたいと言っても、いいね、男の子がケーキ屋さんになりたいと言っても、いいねと言えるような社会を目指していただきたいと思います。

ではですね、続いて、2番の（仮称）駅北子育て支援複合施設の再質問に移りたいです。

まず、様々なご意見、賛成も反対もいろんなご意見があるので、ちょっと整理していききたいと思います。ちょっと情報が、いろんな何か錯綜していて、これはどうなのかと、いろんなご意見をお聞きしています。

まず駅北は、商業地なんだから子育て支援じゃなくて別のものにしてほしい。例えばコンビニだとか、そういう商業施設でもいいし、何か企業が来てもいいんじゃないかというご意見です。これは8月25日、ヒスイ王国館で開催された（仮称）駅北子育て支援複合施設整備の見直し、市長との懇談会でも出てきたご意見だと思っています。

ただ、商業地にする場合ですよ、旧東北電力ビルと旧宮田ビルの解体費、それから令和6年度までに国に、既に国から頂いている補助金の返還が必要になるということで理解してますが、その理解でよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

駅北なんだから商業地ということで、なぜ子育て支援かということでございますけれども、これまでもそういった、当初から議論がある中で、にぎわいの拠点という形で、当初言われていた中で、どのような形でにぎわいをつくるかといったところが議論されてきたというふうに思っております。そういった中では、にぎわいということにつきましては、市のほうでは人が集まるといったことがにぎわいであるといった定義を踏まえまして、行政機能として、人を集められる機能といったところで駅北に設置できるといったところを踏まえながら、今回、子育て支援という形の機能を設置するという形で落ち着いたというふうに思っておりますし、やはり商業ベースの部分は民間事業者さんでやっていただくといったところが本来であると思っておりますし、国の補助金につきましても、やはりその商業ベースの部分については対象とはならないというものでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

現状の計画を中止と聞いたときに、じゃ、全く何にもしないと思ってた方もいらっしゃいます、市民の中では。全く何にもしないということは、旧東北電力ビルと旧宮田ビルも解体する財源が全部、糸魚川市の負担になるので、その選択肢はないということでよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

これまで駅北の計画地にどういったものをとということで、長年計画をさせていっていただいております。久保田市長が当選をされまして、建物の建設は中止ということで方針は変えさせていただいた部分がございますけれども、当初の計画を全てなくしたというふうには理解しておりませんで、当初の計画部分を、目的については維持していく中で造るものを変えたといった考え方で、今検討をさせていただいているというものでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

では、駅北の計画地は、子育て支援にそのまま継続していくということで理解しました。

では、6月定例会と9月定例会があつて、関心が高く、生中継、録画配信、能生ケーブルテレビ、また新聞報道などで、いろいろご意見をいただいております。

まず、1つ目の疑問、寺島区の区長として、区長会、連合区長会、能生、青海等の地域活性化協議会に出向いた際の声とあり、それは正式な議題として取り扱ったことはないと思いますという答弁がありました。この区長の声に対して市民の方から、それは区長として全体の意見を取りまとめた結果の意見ではないのではないか、区長個人の意見ではないのか。少なくとも自分は、区長に意見を求められることもなければ、区民に対してアンケートがあつたわけでもないし、区長が賛成か反対か、どのような意見を持っているかさえ知らないと。これの区長のご意見というのは、個人的なものなのでしょうか、それとも区全体に代表されたご意見として、久保田市長はお聞きしたのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

今、田原議員がおっしゃったように、正式な形での、いわゆる問いと答えではなくて、やっぱり区長会等の中で、やっぱりその場、会議終了後だとか、いろんな部分でどう思いますかというような問いかけに対してお聞きしたというレベルの問題でありまして、実際に区民全体にアンケートをしたとかということについては一切ございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

では、2つ目の疑問です。

選挙公約とかで、産後ケア、重度心身障害児、その保護者に関わる部分の、関連してる部分が不足している。商業施設が入っていない中で人流を見込めるのか疑問というような答弁もございました。この産後ケア、重度心身障害児については、すっかり話が飛んでるような気がするんですが、

こういったものは、駅北の広場につくるのか、新しく作る屋内遊戯施設に造るのか、別の場所に造るのか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

産後ケアの施設につきましては、今、市内に2か所稼働している部分がございます。市長就任されてから、そういった状況についても、私どものほうから丁寧にご説明をさせていただく中で、現状につきましては、今のその2施設で対応していけるのではないかとというふうなところで、現在、駅北のほうでは産後ケア施設については想定はしておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

重度心身障害児についてはどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

重度心身障害児の施設につきましても、通所の施設が2か所ございます。入所という形でも1か所ございますので、すいません、それは「児」ではなく「者」のほうなんですけどあります。入所になりますと、市外になりますけれども、対応しているという状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

ということは、見直しの中に入ってた考えの中の、この2つについては、ほかで今はできてるので、特別取り組む必要はないということによろしいですね。

では、3つ目の疑問です。パブリックコメントの意見を一つの材料としてありましたが、パブリックコメントの意見数73件に対して、反対意見が多かったのか、実際どうなのか。整備費及び運営費の縮減、施設整備の懸念と反対、市内既存施設の活用等の検討について、件数を具体的にお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

大変申し訳ございません。そちらの件数については、手元に今、資料がございませんのでお答えできません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

ここに子育て基本計画のがあって、パブリックコメントもあります。整備費及び運営費の縮減については5件、施設整備の懸念と反対4件、市内既存施設の活用等の検討2件、これを併せても11件、73件中11件で、明らかに反対意見が、賛成意見を私は大きく上回っているとは思えないんですよ。

ただ、反対意見があるのは、私は否定はしません。賛成意見もあれば、反対意見もあれば、もっとうるさく見直していただきたいというご意見たくさんあったことをご理解しています。ただ、このパブリックコメントで反対が大きかったというのが、反対の方は、反対の理由を長く書かれているので、例えばその声が大きいくらいに感じてるんじゃないかという懸念なんです。賛成の人たちって、なかなか声を出しません。

では、井川副市長にお聞きします。

通常、このパブリックコメントを行った場合、賛成の方と反対の方、どちらのほうの意見が出やすいものなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

一般的な考え方で申し上げますと、基本的には反対側の意見が出てくることが多いというふうに思っております。通常のパブリックコメントでは、形式上、実施しておりますが、実態としては意見がゼロというのが最も多いという形になっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

計画の契約も解除の方向になってしまっているの、なかなか元の計画に戻すというのは難しいと私も理解しています。その代わりに、別の場所で作る屋内遊戯施設についてお伺いします。

まず、一時預かり機能について、プロポーザル、2つの事業所が提案したときに、一時預かり24時間に挑戦したいというところが大きく評価されたと私は記憶しております。この一時預かり

保育は、どこに行くんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

当初、計画しておりましたDBOでの複合施設整備の中では、一時預かりといったところで計画を入れておりましたけれども、今、既存施設を活用した屋内遊戯場といったところになりますと、やはり一時預かりは、施設を実施するに当たって、設備基準といったところがございまして、既存施設にそういったものを付け加えていくといったところでは経費的な部分も見込まれるところから、現状、そちらを屋内遊戯場のほうに入れるということは想定をしておりません。

ただ、これまでも市内の保育園等で一時預かりについては実施しているところがございますので、そういったところで対応はしてまいりたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

既存施設を使えば、建設費とかは下がるんだけど、機能も下がってるんですよ。私たち、多分子育て世代が期待してたのは、駅北の複合施設であれば、そこでワンストップで育児が賄える。ゼロ歳から、例えば一時預かりをできる。例えば小学生が、夏休みの宿題を持って行って、遊んでいられるというふうな、一つでまとまってるものが、今までどおり、下の、例えばゼロ歳児は保育園に預けて、上の小学生は屋内施設に預けてとかというふうに、結局ワンストップで終わらないところはどうのように解決していくんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

議員おっしゃるとおり、ワンストップで解決していかないという部分はあるかと思っております。

今、横町にございます中央保育園のほうでは、一時預かりといったことで公立園としては実施させていただいております。そういったところでの対応というところを今後、また考えていかなければならないかなというふうには思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

中止というのが大きく出過ぎてしまって、それに期待してた市民の方からは、別のところに屋内遊戯施設をしっかりと450平米で造るってことが、まだ理解されてない方が多くいらっしゃるようです。

では、この450平米、屋内遊戯施設あるところは、いつオープンするんですかと。駅北のところは解体が遅れて、どんどん、どんどんオープンが遅れてます。これより早く屋内遊戯施設を造ってほしい。既存の施設なんだから、解体、設計、建設してるよりも早くできなきゃ意味がないと思うんですが、その辺のオープン予定をお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

屋内遊戯施設につきましては、議員のご質問の中にもありましたように、第1期の子ども・子育て支援事業計画を定めました平成27年、そのときに子育て世代にアンケートを取った中で、やはり欲しい施設ということで、最も上位にあった施設でございます。そのときからもう10年というか形で経過をしております。私どもといたしましても、その施設については早期に整備をしていきたいという考えでおりますので、屋内遊戯場につきましては、なるべく候補地が決まりましたら、早期に供用開始できるように取り組んでいきたいと考えているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

では、屋内遊戯施設の立地について質問が来ています。

まずですね、子供たちが使う場所なので、駅北の予定地であれば、大体どこの、糸魚川市内からバス乗っても、糸魚川駅行きというバスに乗れば、乗り換えがなく、子供でも安全に親御さんは、行ってらっしゃいって、夏休みに使えると思ってたと。電車も使えましたと。

では、別の場所に造った場合、子供たちで行きやすい場所になるのでしょうか。これすごく大きな観点だと思います。例えば空いてる公共施設を使うとなっても、市振小学校、上早川小学校、今井小学校、浦本小学校、木浦小学校、開いてますけど、ちょっと子供たちで行くには遠過ぎるとか、バスの便が悪いんじゃないかのご意見聞いてます。予定地は、ちゃんと子供たちで安心して行ける場所に選定していただけるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

やはり利用しやすい場所といったところは重要だというふうには思っておりますので、市街地か

ら遠く離れた部分といったところは、今、議員おっしゃるような形で、子供たちだけで行かせるにはご心配といった向きもあるかと思っております。そういったところも考慮しながら、利用しやすい場所ということで選定はしてまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

では、この屋内遊戯施設450平米は確保するとして、図書機能だとか子供たちが宿題をしたりとかする機能についてのスペースは、何も今まで提案はないんですが、どのぐらいお考えなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

屋内遊戯場の候補地となる施設のスペースによるというところが、やはり一番大きいかなというふうには思っておりますけれども、子供たちのための施設ということでしっかりと整備していきたいというふうに考えておりますので、そのスペースの部分を考える中で、基本的には屋内遊戯場と子育て支援センターという形での部分を基本としながら、利用しやすい施設となるような検討は、引き続きしていきたいというふうには思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

柏崎の屋内施設、リニューアルオープンされて、燕市も、市外からも来てます。それから、十日町から隣の小千谷市に、「ホントカ。」という図書館と屋内施設、複合施設ができたので、かなり市外からも利用者がいます。

糸魚川市の屋内遊戯施設は、糸魚川市民のためだけに造るんでしょうか。それとも、これを起爆剤にして、外からもうぜひ糸魚川に来てほしいという施設を目標とするんでしょうか、どちらなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

これも過去の一般質問等でお答えしたこともあるかと思っておりますけれども、やはり基本的に

は市内の子育て支援ということで、そちらを軸に考えながら、ただ、よその地域からもご利用いただけるような施設になっていくということが理想ではないかなというふうには思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

駅北に汎用性のある広場も屋内遊戯施設も、私、わくわくして、糸魚川楽しそうじゃない、行ってみようよ。例えば糸魚川に観光来た方が、寄り道したくなる場所にぜひしていただきたいと思っています。

最後にですね、遊ぶ場所だけではないという機能、例えば親御さん同士の交流だとかあるんですが、一番大事なところが、私、毎回抜けてるんじゃないかと思ってるんですよ。私、この屋内施設の必要性を訴えているときは、まず、発達に心配がある人をこちらから見つけるという機能が答弁とかでは抜けてると思うんですね。その辺は、もう一度お聞かせいただけないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

議員おっしゃるとおりですね、やはり子育て支援センターと屋内遊戯場を併設することによりまして、保育士等が、遊びに来たお子さんを見ていく中で、やはり少し気になるお子さん、あるいはお子さんと親御さんの関わりで気になる部分、そういったところは早期に発見ができるといったところは大きなメリットだというふうには思っておりますので、これまでそういった部分を、特に声を大きくしてというところでは言っていないかもしれませんが、そういったところは重要なポイントであるというふうには認識しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

支援センターというと、今まで私も言ってたんですが、支援が必要な方が行く場所、私は支援が必要ないから行かなくてもいいという方も多くいらっしゃいました。屋内遊戯施設があれば、子供が行きたいと言えばですよ、自然に連れていくことがあって、2023年5月13日、総務文教常任委員会で現地視察に行った上越市のオーレンプラザでも、職員の方から、日常会話の中でさりげなく交流を促す。ほかの子供の様子を見ることで、自分の子供の成長と比較することができる。気になる方は、こちらから声がけをして、必要な支援につなげているという説明がありました。

これが、なかなか理解されないんですが、ただ、屋内遊戯施設、別のところにつくるときに、また再度、子供が少ないんだから要らないよね。お金かけ過ぎじゃないかと言われたときに、久保田

市長、強い意思ですね、これは糸魚川市の子育ての問題解決に必要なものなんだというふうに伝えていただきたいんですが、ぜひ考えをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

私も現在、過去も含めて、いろんなところに見て回ってきました。当然、産後ケアのところも、重度身体心障害児の施設も、そして今、「まいぷれ」と言いまして、中央公民館、糸魚川公民館で行っている子供たちの体操教室を扱っているところ、現実に糸魚川では、そういうふうに面倒見ていただく方が多く存在してたんです。それも既存なんです。今、その既存をさらに有効にしていって、またその連携をしていく。行政がそこに手を携えていくという部分が、これからの糸魚川にとっては必要なことだと思います。建物ありきではなくて、今、人ありきで考えるにあっては、今既存の人、既存のものをどうやって有効に使っていくのか。それでも足らざる部分があったときに、次の整備計画をどうすればいいのかと。次なる展開に結びつけられるようにしていきたい。今は、既存の人と物を最大限生かしていくという、やっぱり政策・施策に、私はそういうふうに市民と一緒に共に歩いていくのがベターではないかと思って今、現時点の整備計画について思いを強くして、またそれを発信していかなければいけないと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

田原洋子議員。

○10番（田原洋子君）

2023年10月20日にビーチホールまがたまで開催された、発達支援応援事業、市民講座、発達障害児「やたちちゃんと森下家の人びと」、やたちが診断を受けたのは3歳のときで、信頼できる友人が受診を勧めてくれたのがきっかけ。

先日、11月15日にも同じ発達応援支援事業が、市民講座があって、歌と言葉で紡ぐ自閉スペクトラム症の子育て、この方も、小学生に上がる頃に保育士さんや近所の方に言われるまで気づかなかった。診断は早いほうがいい。その子のためにも早く診断を受けるべきだ。診断を受けて終わりではなく、その子にとって分かりやすい方法、何が不安の原点になり、パニックになり、何が苦手なのかを知れば、対応できるというお話をされていました。

ただ、残念ながら、この講演会も、さっきの男女共同参画と一緒に、来られてる方も少ないし、男性の姿も少ないし、年齢層も限られているなど感じました。これを広く、私は知っていただきたいと思います。

以上で終わります。

○議長（古畑浩一君）

以上で田原洋子議員の質問が終わりました。

以上で、本日の全日程が終了いたしました。